

林野内はやしのうち（現 林ノ内）

1番・2番あり、山林・畑三反。

歌ノ沢堤の東側にあたる。所有者入田沢の人が多い。

歌ノ沢うたのさわ

歌ノ沢堤の面積・五反八畝一步。所有者入田沢の人が多い。

歌ノ沢堤

入田沢集落前約五百米のところに、出戸田沢・樋渡（ひわたし）・勝方の三集落共有の堤がある。

天明の頃早魃で米が取れず、村下の農民達が大変困って堤を造る相談になった。

堤の水を通すには堀を造らねばならず、相談には入らなかつた一番村上の入田沢集落では、条件として水は自由に使用してもよいと言う事で相談がまとまった。

三集落の人は男女を問わず毎日「土手しめ歌」を歌いながら堤の構築に従事、約二年の歳月を費やし完成した。

完成間際に身体が弱かった人が亡くなり、それ以後は「歌ノ沢堤」に行くとは何処からともなく「土手しめ歌」が聞こえるようになったと云う。

また昔牛馬が沢山飼われ農耕に使役されていた頃、朝草刈り、山取り等馬に乗って、歌を歌いながら往復していた。その歌声が山に飮こぼして一層美しい歌声となって伝わって来るので、「歌ノ沢」と名付けられた。

蟹ノ沢かにのさわ

歌ノ沢堤の手前、一部・二部有り、所有者入田沢の人が多い。

壇ノ上だんのうえ

1番〜18番まで。畑・草地・山林

所有者入田沢の人が多い。入田沢集落前の墓の上部にあたる。

宮窪みやくぼ

寺山てらやま

山林、125山2分5厘の38人名義

離山はなれやま

山林、125山2分5厘の38人名義

館山たてやま

共同山林、38名

カン一

1番〜13番まで、田・畑

六百苺ろっぴやくがり

1番〜36番まで、田・畑